

記事読み平和語り継ぐ

全国大会閉幕 次回広島で来年7月



「時代を読み解き、いのちを守るNIE」をスローガンに神戸市で開かれた第30回NIE（教育に新聞を）全国大会は1

日、記事の読み比べで学びを深める実践などを発表した。次回の第31回大会は来年7月30、31日に広島市中区の広島国際会議場を会場に開かれる。

6年生が、岩手、茨城、静岡、福岡4県の地元紙が発行する子ども新聞の東日本大震災に関する記事を読み比べ、どのような違いがあるか考えた。児童は見出しや写真に着目し、「被害を少なくしたいというのは同じだけど、地域によって伝えたい思いが違う」などと発表。前野翔大教諭（38）は「違いを通じて、発信

者の思いや意図を理解してもらえたら」と話した。小、中学、高校がある愛徳学園（神戸市）は、中学3年生が平和学習の成果を新聞にまとめ、小学6年生に伝える取り組みを発表した。生徒は修学旅行で原爆資料館（広島市中区）などを訪ね、8月6、7日の中国新聞

記事を読んだ。被爆者への聞き取りも踏まえて新しい聞をつくり、平和について考え、語り継ぐ大切さを学んだとした。NIEアドバイザーとして講評した庄山田小（呉市）の高下千晴教諭は「戦争を経験していない世代が次の世代にどう伝えていくかという切実な課題を持ち、新聞の編集過程そのものが戦争の記憶との対話、継承する場になっている」などと述べた。